

令和２年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価実施報告

１．めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力」と「豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、将来を生きていく力と、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、豊かな情操を育むとともに確かな学力を育成する。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりが持つ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

２．中期的目標

「確かな学力」と「豊かな情操」を教育方針に、心豊かな人間を育成するため「常に向上をめざし努力すること」、「人を思いやり物にも感謝すること」、「ものごとに素直に感動する心を持つこと」の三つを目標として掲げている。これらのことを基軸として年度当初に学校経営方針を示し、心豊かな生徒の育成と、それぞれの生徒の目標の実現をめざし取り組んでいる。

（１）学校運営

- ①生徒に満足感や充実感を与える工夫された授業・クラブ活動への取り組み
- ②安全対策及び生徒への緊急連絡
- ③組織の活性化による学校改革への意欲向上
- ④生徒募集定員の確保
- ⑤次年度実施する海外研修旅行、新制服導入への取り組み

（２）教育実践の充実

①教科指導

- ・学習指導要領改訂に伴うカリキュラム編成の研究
- ・アクティブラーニングなどの手法を用いた授業方法・授業内容の工夫改善
- ・各教科で設定した研究テーマに沿った研修
- ・中学・高校が連動した指導
- ・英会話の運用力の向上と、今後の英語教育の進展を踏まえた取り組み

②生徒指導

- ・挨拶運動の推進

- ・生徒一人ひとりに寄り添った学級指導
- ・情報端末機器の適正な使用のための指導

③進路指導

- ・新しい入試制度・学校推薦型選抜等の研究
- ・退学の防止対策

④人権教育

- ・人権意識の醸成
- ・人権教育にかかる授業の工夫改善

⑤情操教育

- ・人間としての生き方や在り方を考える道徳教育の研究・実践
- ・宗教の時間を通した心豊かな人間の育成

⑥家庭との連携

- ・ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行
- ・保護者ニーズの把握と適切な対応

⑦広報・募集活動

- ・学校の魅力や特色の発信
- ・教職員一丸となった広報活動

(3) 意識改革と資質向上

- ・「生徒による授業アンケート」等の活用による授業力の向上
- ・教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有と意見交換
- ・企画力の育成

(4) 学校行事

- ・生徒会の自主活動の推進
- ・部活動の活性化

【自己評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
年度当初から新型コロナウイルス感染症の拡大で、二か月の臨時休校となり学校行事も中止や延期など大きな影響を受け、生徒達も落ち着いて学習に取り組めなかった。特に、新入生にとって、学習の基本姿勢身につかず、友達作りにも苦労し、ごちなく始まったと年度と言える。ただ、日々を重ねるごとに、授業や部活動、友達関係も改善されていった。一方で、休校期間に授業も Classi やオンライン	新型コロナウイルスの感染防止対策を優先に取り組んだ年だったが、その中でも、学校生活の中で自主性・自立性を養い、生徒の個性を大切にしたい取り組みに期待することや、推薦制度を活用した進路指導など保護者から様々な要望があった。また、コロナ禍の中で情報端末を使った授業に期待を寄せる意見が見られたこともあり、早急に ICT 教育に関連する設備を整備し、

ンで配信するなど ICT 教育が進んだ。令和 3 年度から、一層 ICT 教育を進めるべく ICT 環境の整備を急いでいる。また、ICT 教育に不慣れな教員もあり、早期のスキルアップが必要となっている。学校としても、新学習指導要領を踏まえ、情報端末の有効使用を加速させるなど、さらに教育の充実をめざしたい。また、期待が大きい大学進学についても、大学改革を踏まえ、個々の学力や適性などを見極めて指導を進めていく。	教職員の研修も含め、よりよい教育環境が提供できるよう対応していく。また、転退学生生徒の減少のためにも、一人ひとりの生徒に寄り添うことや、校内での相談活動の充実が求められた。様々な要望があったが、学校の取り組んでいる情報を発信し、理解を得ていくことがさらに必要だと考えている。生徒の健全育成のため、さらに学校と保護者が連携していくことが確認された。
--	--

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学 校 運 営	ア、生徒に満足感や充実感を与える工夫された授業・クラブ活動への取り組み	ア、「生徒の授業評価アンケート」を分析し、中学部会・学年会等で検討し実践に移す。また、部活動では、効果的な指導方法を工夫する。	ア、「生徒の授業評価アンケート」で 85%以上の生徒が充実した授業だと感じられるようにする。	ア、平均的値は 90%以上であるが、下位層の教員には助言を行い、指導力の向上に努める。
	イ、安全対策及び生徒への緊急連絡	イ、警察署・消防署等から講師を招き、交通安全・防災訓練、SNS 等について指導受け、生徒の安全意識を向上させる。特に緊急時のメールによる一斉連絡を整備する。	イ、防災訓練・交通安全・SNS 等の指導を年 1 回以上実施する。自転車事故について啓発を行い年間事故件数 40 件以下にする。Classi による一斉メール配信システムを整備する。	イ、予定した消防署・警察署からの防災訓練・交通安全指導・SNS 指導が実施できず、教員の講話として実施した。来年度は予定通り実施する。Classi による一斉メール配信システムを整備した。
	ウ、組織の活性化による学校改革への意欲向上	ウ、教員が「設定目標自己診断」を実施することで、PDCA サイクルによる学校教育への改善意欲を向上させる。	ウ、各教員の設定した目標について、管理職による全教員へのヒアリングを年 1 回以上実施し、目的の達成状況を把握し、指導・助言する。	ウ、全員からのヒアリングと助言をし、成果があった。今後も続けていく。
	エ、生徒募集定員の確保	エ、学校の魅力と進学実績等の発信により、生徒の募集定員を確保する。	エ、入試広報部と教職員の連携により中学、高校ともに、定員を確保する。ま	エ、厳しい状況であったが中学 49 人、高校 250 人の入学があり、中学

学 校 運 営	オ、次年度実施する海外研修旅行、新制服導入への取り組み	オ、新しい金光八尾のイメージとして新制服・海外研修旅行等を広報する。	オ、新しい金光八尾としての取り組みが、受験者の増加につながるようにする。海外研修の事前指導は教科横断型で取り組む。	卒業生が減になる中一定の成果は出せた。来年度も定数の確保に向け努力する。 オ、新制服の評価は高い。今までより自由度が増えることで、女子生徒の受験が増加した。来年度も広報に努める。
教 育 実 践 の 充 実	<教科指導> ア、学習指導要領改訂に伴うカリキュラム編成の研究 イ、アクティブラーニングなどの手法を用いた授業方法・授業内容の工夫改善 ウ、各教科で設定した研究テーマに沿った研修 エ、中学・高校が連動した指導	ア、教務部を中心に特色あるカリキュラム編成を研究する。近年医療・看護系の進学希望が多いことから講習等を活用して支援する。 イ、教員の授業力の向上のため、学期に1回以上はアクティブラーニングを用いた授業に取り組む。 ウ、各教科で設定した研究テーマについて研修を深める。 エ、教科指導・生徒指導・進路指導等において、中学・高校が連携して指導を行う。	ア、教務部会を中心に運営委員会で新カリキュラムについて検討し、2022年度に向けて始動する。年5回以上の研究授業を実施する。 イ、80%の生徒が主体的・対話的で深い学びだと感じるような授業になるよう研究実践をする。 ウ、教科会を学期に1回以上開催し、年度当初に設定したテーマについて報告し研修する。 エ、各教科のカリキュラムや生徒指導・進路指導に関して中学・高校連絡会を開催する。また、中学生に高校での学習や生活、進路について学ばせる。	ア、本年度より授業時間帯の教科部会の開催が可能となるよう工夫することで、課題解決に向けて取り組みが進んだ。また、研究授業も実施した。次年度も引き続き行う。 イ、深い学びには至らないが、零年度も研究と実践に取り組んでいく。 ウ、本年度より授業時間帯に教科会が開催できるようになり、教科で設定した課題に取り組めるようになった。次年度もこの形態で進める。 エ、来年度より中学の新学習指導要領全面実施に伴いカリキュラムの編成をした。次年度より具体的に取り組みが進む。

教 育 実 践 の 充 実	オ、英会話の運用力の向上と、今後の英語教育の進展を踏まえた取り組み	オ、中学・高校でネイティブスピーカーを活用し、英会話の運用力の向上を図る。	オ、中学でのALT、高校でのベルリッツの授業を通して英会話の運用力向上を図る。また、中学での英検、高校でのGTECのスコアの向上をめざす。	オ、英会話の運用力向上に努めた。受験の際にも利用できるよう、今後も継続して取り組む。
	＜生徒指導＞ ア、挨拶運動の推進	ア、生徒会活動や部活動を通して生徒たちが自然と挨拶を交わせるようにする。	ア、生徒の9割以上が挨拶運動に参加していると実感できる環境をつくる。	ア、マスク着用の増加で低調だったが、次年度も引き続き挨拶運動を続ける。
	イ、生徒一人ひとりに寄り添った学級指導	イ、生徒との対話を大切にし、教員と生徒との望ましい人間関係を構築する。	イ、教職員が積極的に声をかけるとともに、生徒の変化を見落とさず個人懇談を実施する。	イ、積極的に取り組む教員が増えた。生徒の実態に応じて指導できる力が育っている。
	ウ、情報端末機器の適正な使用のための指導	ウ、スマホ等の学校への持込に伴い、入学時や生徒集会等さまざまな機会をとらえて適正使用について指導する。	ウ、生徒を対象に、年2回以上の指導と、新入生保護者を対象とした研修会を開催する。	ウ、新入生オリエンテーションなど、集会の中で指導した。大きな問題はなかったが、来年度も内容を工夫して実施する。
	＜進路指導＞ ア、新しい入試制度・学校推薦型選抜等の研究	ア、各大学の入試改革が進む中、生徒一人ひとりの特性や能力等を大切に、将来を見据えた進路指導を行う。	ア、進路LHRの指導資料を作成する。生徒・保護者を対象に入試制度や進路状況等について説明会を開催する。大学現役合格率85%以上を目指す。	ア、今年度も30人を超える生徒が学校推薦型選抜をエントリーした。また現役率は81%以上で課題が残った。
	イ、退学の防止対策 ＜人権教育＞ ア、人権意識の醸成	イ、「入学した生徒は卒業まで」を合い言葉に、保護者と連携し一人ひとりに寄り添った指導の徹底を図る。 ア、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」のない学校づくりに努める。	イ、個人懇談を大切に、生徒との信頼関係を構築する。退学率を1%未満にする。 ア、「いじめゼロ」を目指す。いじめが起こった場合、連携して対応できるようにする。	イ、学力不振・健康上の理由での転学者が多かった。退学は1%未満であった。 ア、学校での様子や交友関係を見守り、些細な変化も見逃さないようにする。

教 育 実 践 の 充 実	イ、人権教育にか かる授業の工夫 改善	イ、生徒とともに考える学習形 態・参加型学習の研究・実践に 努める。校外での研修会に参加 し、他校の実践に学ぶ。	イ、資料や指導方法・指導内 容について研究・検討す るとともに、校外の研修 会に 10 人以上が参加す る。	イ、コロナ禍により多 くの研修が中止され た。次年度も引き続 き研修体制を整備す る。
	＜情操教育＞ ア、人間としての 生き方や在り方 を考える道徳教 育の研究・実践	ア、人間としての生き方や在り方 を学び、それを自身の生活に活 かす	ア、道徳・情操教育委員会を 学期ごとに開催し、年間 計画を樹立する。道徳の 時間指導の資料開発に努 める。	アコロナ禍の中で十分 活動はできなかった が、次年度も宗教科 教員とも連携して取 り組む。
	イ、宗教の時間を 通した心豊かな 人間の育成	イ、他校の実践も参考にしながら 指導内容・指導方法について研 究を深め、実践につなげる。	イ、指導内容の充実を図る 宗教担当者会議と、宗教 に関する校内研修を年 1 回以上開催する。	イ、計画通り研修会は 実施できた。来年度 も有意義な研修にし たい。
	＜家庭との連携＞ ア、ホームページ の充実、学校通 信・中学通信等 の発行	ア、ホームページの随時更新と学 校新聞・中学新聞等の定期発行 を通して、学校の情報を積極的 に発信する。	ア、ホームページに各行事 やトピックス等を随時更 新して発信する。金光八 尾新聞年 2 回、中学新聞・ 保健室便りなど毎月 1 回、定期的に発行する。	ア、計画どおり進め た。次年度は ICT 教 育環境を整備するこ とから Classi の発信 を含め、より充実さ せる。
	イ、保護者ニーズ の把握と適切な 対応	イ、PTA 役員や学級委員等と連携 し、保護者のニーズを把握し、 解決に向けて努力する。	イ、年 1 回以上保護者会を 開催し、保護者からの要 望を精査し、学級委員と 連携し課題の解決に努め る。	イ、コロナ禍の中で保 護者会の要望を十分 収集できなかった。 次年度は課題を明確 にし解決に努める。
	＜広報・募集活動＞ ア、学校の魅力や 特色の発信	ア、学校案内・ホームページを活 用して魅力や特色を発信する。 また、生徒の出身中学校や学習 塾等を訪問し、意見の交換をす る。	ア、学校の魅力・特色や進路 実績を発信するととも に、改善点等も把握し、中 学、高校の募集定員の確 保につなげる。	ア、学校の魅力発信に 努めた。結果的に生 徒募集につながっ た。来年度は募集範 囲を拡大し丁寧に取 り組む。
	イ、教職員一丸と なった広報活動	イ、入試広報部と教職員が連携 し、本校の取り組みや学校の魅 力について発信する。	イ、オープンスクール・学校 説明会・私学展等に、広報 部職員と教職員が参加・ 協力して、受験生や保護	イ、コロナの影響があ ったが、様々なイベ ントに教職員も参加 し、成果を上げた。

教育実践の充実			者に対して本校の魅力を発信する。また、発信内容や発信方法について検討する。	次年度は発信力を増して、全教職員が一丸となって取り組む。
意識改革と資質向上	ア、「生徒による授業アンケート」等の活用による授業力の向上 イ、教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有 ウ、企画力の育成	ア、各教員が「生徒による授業アンケート」を活用し授業の実態を把握する。また、教科会等で調査結果を分析し、各教員が授業に活かす。 イ、教科会、部会、学年会を定期的に開催し、情報交換や、受講した研修内容等について報告し、情報を共有する。 ウ、学校行事や学年行事に対する意見・改善点の集約を通して、企画力の充実を図る。外部研修等を通して、学校運営への参画意欲の向上を図る。	ア、各教員の授業に対する生徒の肯定的評価が80%以上となるようにする。 イ、中学部会・各学年会を毎週開催するとともに、教科会・各部会を年3回以上開催し、課題について意見交換をする。 ウ、教員の各行事への改善意欲が90%以上となるようにする。校外での研修会等に延べ30人以上が参加する。	ア、肯定的な評価が80%以上となっている。各教員が自己の課題を明らかにして取り組んでいく。 イ、コロナの影響はあったが、後半部分では予定通り実施できた。次年度も課題解決に向け取り組む。 ウ、今年はコロナの影響で多くの行事が中止されたが、創意工夫の中で代替行事として一部実施した。来年度は各行事の改善意欲につなげる。
学校行事	ア、生徒会の自主活動の推進 イ、部活動の活性化	ア、生徒会役員や各クラブ員が自主的・自立的に文化祭、挨拶運動、奉仕活動等に参加するよう支援する。 イ、部活動を通して生徒の自主活動を推進させる。	ア、生徒会役員等の提案を大切にし、生徒の自主活動の肯定的評価が80%以上になるようにする。 イ、部活動への入部率が、中学で80%以上、高校で45%以上をめざす。	ア、生徒の自主活動の場が少なかったが、生徒会の新たな取り組みも生まれた。 イ、入部率は中学校で81%、高校で50%であった。コロナ禍の中で制限された部活動だったが、集中した活動となった。